



学校だより

横浜市立上大岡小学校

No.622 6月号

令和4年6月1日

学校URL→<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiohoka/>



学校教育目標
ぐんぐん
にこにこ
きらきら輝く
上小の子

すくすく成長しています

副校長 森 馨一

八重桜が散る4月から早2か月がたち、上段のはまみらいがたくさん咲く時期となりました。今年度は新型コロナウイルス感染症防止対策を継続して取り組む中で、衛生管理マニュアルにそって活発に教育活動に取り組んでいる日々です。

先日は土曜参観にお出でくださり、まことにありがとうございました。こうして学校での子どもたちの様子をご覧いただけることが、子どもたちにとって励みになりますし、上大岡小学校の取り組みについて、保護者の皆様にご理解いただけることが何よりです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

今年度から新しい中期学校経営方針に基づき、本校はさらなる教育活動を進めてまいりました。今回は笹下中学校ブロック（笹下中、南台小、日下小、上大岡小）で進めていく「9年間で育てる子ども像」についてお伝えいたします。笹下中学校ブロックでは「つながりを大切にし、自他を思いやった言動のとれる子ども」「めあての実現に向けて自信をもって主体的にチャレンジできる子ども」像を4校で共有し、上大岡小学校でも取り組みを始めているところです。

日々の学級、学年の活動の場だけでなく、一例として、通年行いますたてわり活動を積み重ねることで、異学年との交流を通して自他の思いやりを育てています。5月に実施した全校オリエンテーリングに向け、年度当初より6年生はリーダーとしての心構えだけでなく、下級生との顔合わせや1年生のフォローアップ、グループ活動の具体的な取り組みの具体案を考え、事前の班会議でリードすることに努めました。そして、オリエンテーリング当日は各グループでの活動も班でまとまって実行し、6年生はリードするのに緊張の一日でした。そしてその日の下校時の6年生は「疲れたあ。」という言葉とは裏腹に、自分たちがやり遂げたという自信から顔の位置がいつもよりも上がった様子が見られました。

また、港南警察署スクールサポーターの有川さんが土曜参観では高学年児童、保護者の皆様と一緒にスマートフォンのSNSの問題について話合いました。その有川さんは5年生の理科の観察に合わせて、ご自身で育てられている今年産まれたばかりのメダカの卵をたくさん持ってきてくださりました。そのメダカの卵を小分けにパックし、5年生は暑い日差して水温が上がりすぎないように、自分のハンカチでパックを覆いながら大事そうに持ち帰るその姿は、小さな命を大事にする心と有川さんへの感謝する気持ちそのものでした。

さらに3年生の理科でキャベツ畑で見つけたモンシロチョウの卵がやがて羽化した学習活動の感動から、今はアゲハチョウを育てることに取り組んでいます。キャベツではなくミカンの木をじっくりと観察し幼虫を見つけると、せっせと飼育箱のなかにミカンの葉をいれるなど、やがてアゲハチョウとして立派な成虫になることを楽しみに世話しているところです。これもめあての実現に向けて自信をもって主体的にチャレンジしている活動です。

このように本校でもこれからも「9年間で育てる子ども像」において様々な取り組みを行っていきます。保護者や地域の方々にもいろいろな活動についてご協力をお願いいたしますが、すくすくと育つ子どもたちのため、学校、保護者、地域の皆様と共によこはまのみらいに向けて、どうぞよろしく願いいたします。

